

## 平成 25 年度老人保健健康増進等事業

### 訪問看護の質の確保と安全なサービス提供に関する調査研究事業

本事業は、全国訪問看護事業協会が厚生労働省の公募事業で内示を受けています。

#### 【研究目的】

超高齢化社会の到来を前に、医療と生活の両面から在宅療養者を支援することのできる訪問看護サービスの安定的な提供体制を構築することは、喫緊の課題である。そのためには、訪問看護における安全性や質を担保する体制や標準的事項について一層、整備する必要がある。

当協会ではこれまでの調査研究で（平成22年度老人保健健康増進等事業「訪問看護の基礎強化に関する調査研究事業」）、訪問看護の安全や質の担保に関する取り組み方には、訪問看護事業所毎に多様性がみられることを明らかにしてきた。多様な特徴や形態をもつ訪問看護事業所を一律に評価することは困難である。しかし、安全性を確保し質を担保するためには、事業所の特徴や形態に応じた標準的事項について検討が必要である。

そこで本研究事業では、訪問看護ステーションを介護サービス情報公表システムから得られたデータを分析し、類型化することにより、その類型に沿った訪問看護の安全性や質の担保に必要な体制や標準的事項について提示する。また、既存データでは不明な状況を明らかにするため、および既存データより導き出された類型化を仮説検証するために、全国の訪問看護ステーションを対象に、安全性や質の担保の取組みに関する実態調査を実施する。そのことにより、訪問看護の質の確保と安全なサービス提供を、訪問看護ステーションの特徴に応じて具体的に立案できることとなり、利用者が一層安心して在宅生活を送ることに資する成果が見込まれる。

#### 【概要】

##### 1. 全国の訪問看護ステーションの現状機能の把握と類型化に関する全国実態調査

介護サービス情報公表システムを用いて、全国の訪問看護ステーションの現状機能（施設属性、利用者情報、サービス内容、安全・衛生管理、従業員の研修状況等）を網羅的にリストアップし、データベースを構築する。次に、現状機能に関する全ての変数を用いて、訪問看護ステーションの類型化を行う。分析の上では、k-means 法によるクラスター分析を行い、類似性の高い事業所群を特定し、それぞれの事業所群の現状機能の違いについて、分散分析を用いて差異をもたらす要因を明らかにする。

抽出された特徴の似た事業所群毎に、訪問看護の安全性や質を担保する上での固有課題を抽出し、今後の整備ポイントを明らかにする。

##### 2. 訪問看護の安全性や質の担保に必要な標準的事項に関する実態調査

1) 利用者満足度調査に関する実態調査

全国の訪問看護ステーション約 4,100 ヶ所に対して、利用者の満足度調査の実施に関して FAX による自記式質問紙調査を実施する。また、諸外国（オランダ等）の先進事例についてもあわせて調査を行い、わが国への示唆を導出する。

2) 質の評価に関する実態調査

「2.全国の訪問看護ステーションの現状機能の把握と類型化に関する全国実態調査」では得られないが、訪問看護ステーションの質の評価において重要と考えられる項目について、全国の訪問看護ステーション約 4,100 ヶ所に対し、FAX による自記式質問紙調査を実施する。

【主任研究者】

日本赤十字看護大学教授 福井 小紀子